

II. スポーツ少年団の現状について

配布対象：市内すべてのスポーツ少年団代表者 86団
 (前回 (H22) 75団、前々回 (H18) 88団)

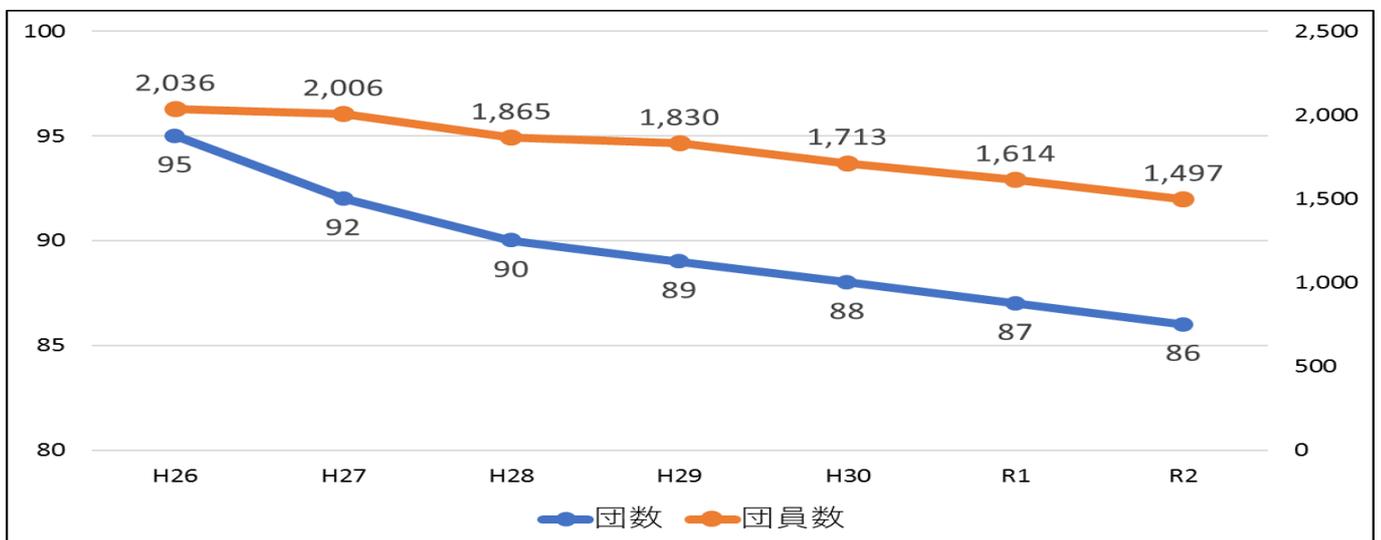
配布時期：令和3年1月29日

回収期限：令和3年2月22日

回答団体：44団 (回答率：51.2%) 参考：前回：44.0%、前々回：55.7%

出雲市スポーツ少年団 団数・団員数の推移

種目	令和2年			平成27年		
	団数	団員	加入割合	団数	団員	加入割合
野球	22	426	28.5%	22	440	21.9%
サッカー	11	329	22.0%	11	556	27.7%
剣道	16	205	13.7%	20	356	17.7%
バレーボール	8	112	7.5%	9	140	7.0%
バスケットボール	6	107	7.1%	7	172	8.6%
バドミントン	6	81	5.4%	6	89	4.4%
ドッジボール	2	41	2.7%	2	46	2.3%
柔道	2	33	2.2%	2	43	2.1%
野球・剣道	1	31	2.1%	1	23	1.1%
総合スポーツ	3	30	2.0%	3	38	1.9%
空手	3	29	1.9%	1	12	0.6%
ソフトテニス	1	27	1.8%	1	35	1.7%
健康体操	1	20	1.3%	0	0	0.0%
卓球	2	19	1.3%	3	31	1.5%
なぎなた	1	6	0.4%	1	5	0.2%
馬術	1	1	0.1%	1	6	0.3%
ボクシング	0	0	0.0%	1	10	0.5%
リーダー	0	0	0.0%	1	4	0.2%
計	86	1,497	100.0%	92	2,006	100.0%



●団数、団員数とも減少傾向が続いています。今後も減少傾向が続くことが危惧されます。

1. スポーツ少年団の活動について

(1) 1週間の活動日数（平均日数）

今回調査	前回調査	前々回調査
2. 5日	2. 2日	2. 1日

(2) 1日あたりの活動時間

今回調査	前回調査	前々回調査
2. 7時間	3. 2時間	2. 8時間

●前回調査に比べ、1週間の活動時間は増加していますが、1回あたりの活動時間は減少しています。

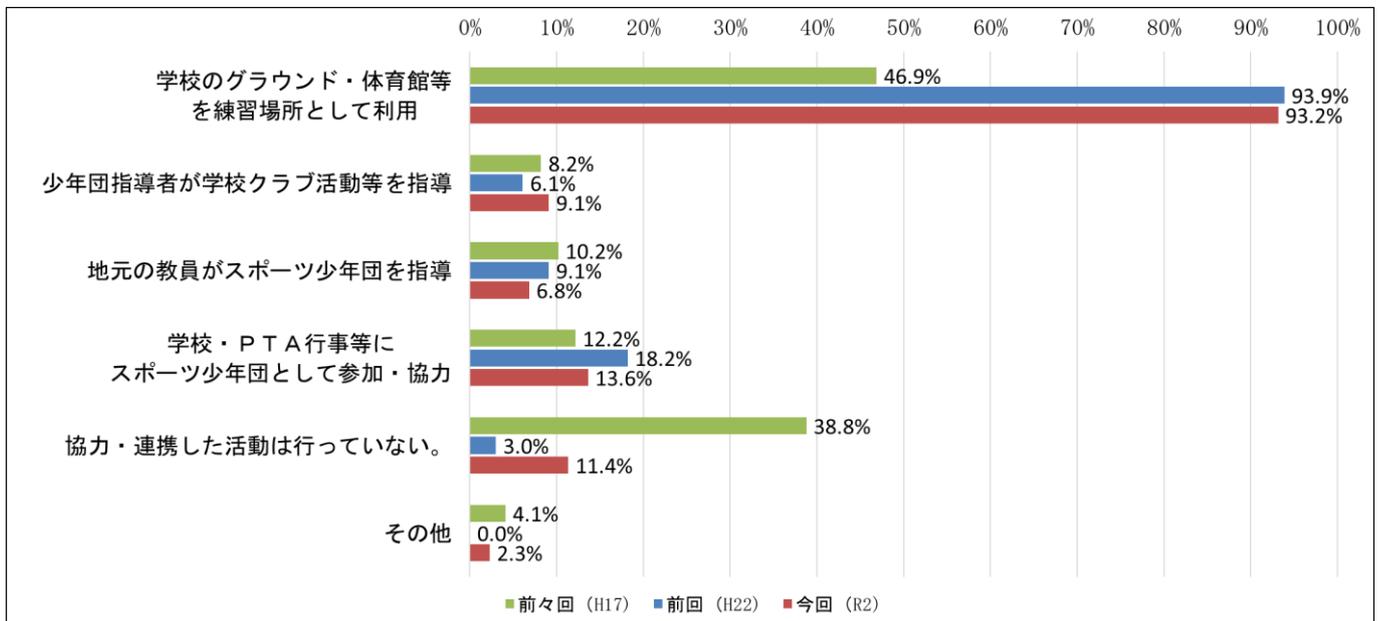
(3) 主な練習場所

	今回調査	前回調査	前々回調査
学校	39団体 88.6%	30団体 90.9%	40団体 81.6%
公共施設	7団体 15.9%	2団体 6.1%	9団体 18.4%
民間施設	0団体 0.0%	1団体 3.0%	1団体 2.0%
個人施設	1団体 2.3%	0団体 0.0%	2団体 4.1%

(4) 学校活動と協力・連携している団体

今回調査	前回調査	前々回調査
39団体 88.6%	32団体 97.0%	30団体 61.2%

① 具体的な協働・連携の内容



(5) 学校活動と協力・連携できない理由

項目	今回調査		前回調査		前々回調査	
1. 学校の理解が得られない	1団体	20.0%	1団体	100.0%	0団体	0.0%
2. 学校が地域活動に協力的でない	0団体	0.0%	1団体	100.0%	2団体	4.1%
3. 協力・連携するメリットがない	1団体	20.0%	0団体	0.0%	3団体	6.1%
4. その他	3団体	60.0%	1団体	100.0%	10団体	20.5%

(その他)

- ・どのように協力連携してよいのか分からない
- ・学校とスポ少は別と考えるため（学校側）
- ・団活動として体育館の清掃を年2回行っている。

(6) 障がい者のスポーツ活動の推進について

① 障がい者のスポーツ活動推進に向けた取組について

1. 行っている	2 団体	4.5%	・デフサッカーについての理解教育 ・練習参加
2. 行っていない	42 団体	95.5%	

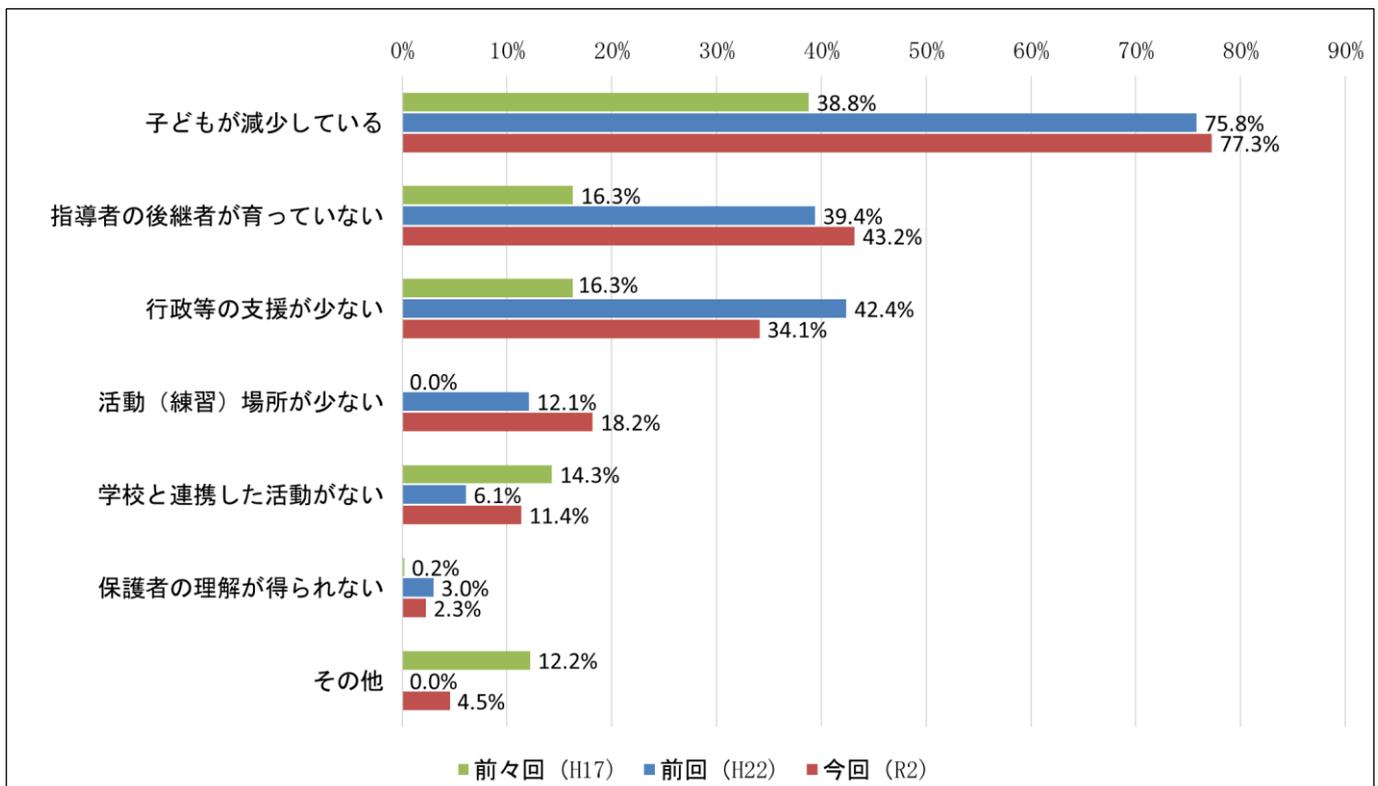
② どのような障がいをお持ちの方に対して取組を行っているか

1. 知的	1 団体	50.0%
2. 精神	1 団体	50.0%
3. 身体	1 団体	50.0%

③ 障がい者のスポーツ活動について、相談できるところ

1. ある	2 団体	4.5%	・日本デフサッカー代表監督 ・代表者自身が日本障がい者スポーツ協会公認障がい者スポーツ指導員
2. ない	36 団体	81.8%	

(7) 団運営上で問題点



(その他)

- ・団員募集について、小学校と連携できない
- ・馬の確保、維持管理が困難

●少子化に伴う団員の減少や指導者の後継者が育っていないことが問題とする回答が多くありました。

(8) 外部講師等を招き講習会などを実施しているか

	今回調査		前回調査		増減	
	団体数	割合	団体数	割合	団体数	割合
している	6 団体	13.6%	9 団体	27.3%	△3 団体	△13.7%
していない	38 団体	86.4%	24 団体	72.7%	14 団体	13.7%

(講習会の内容)

- ・外部講習会への参加あり
- ・全日本コーチを呼び講習会を行う
- ・技術向上
- ・日本バレーボール協会からの講演と指導等
- ・救急救命講習
- ・審判講習会

(9) 団体運営上工夫されていることや今後に向け検討されてこと

- ・保護者、学校との連絡を密にすることを心掛けている。スタッフ間の指導を含め共通理解を深める。
- ・地域と密着、行事等参加
- ・地域行事参加（奉仕作業ボランティア、交通安全週間の手伝い）
- ・高齢者（経験者）に指導を応援していただいている
- ・児童数の減少により、対象児童を小学校区から中学校区、さらには出雲市内に拡げて募集・活動を行っている。
- ・外部講師を招いた講習会を行いたいと検討している。
- ・人数が多いため、曜日を分けて練習している
- ・今年度はコロナ対策に重点を置いた。対外試合ができなく、団の士気が下がりがちの為、団員の集中を保つことにも気をつけた。
- ・指導者の資格取得
- ・他団との情報共有を LINE 等で実施している。
- ・新入団員勧誘のため、小学生希望者を招待して野球を楽しむ会を開催。地域の行事に積極的に参加。年 1 回の清掃活動。経費は可能な限り節約する。子どもたちが楽しめる活動を定期的に行う（海水浴、クリスマス会等）
- ・外部から講師を招き違う方向からの指導もしていきたい。
- ・子ども達の体力向上を願っている。
- ・講習会（種目、青少年育成等）を紹介してほしい
- ・低学年の活動日、活動内容の工夫、保護者をアシスタントとして協力してもらうことで指導者と一緒に子どもたちを育む意識を持ってもらう。

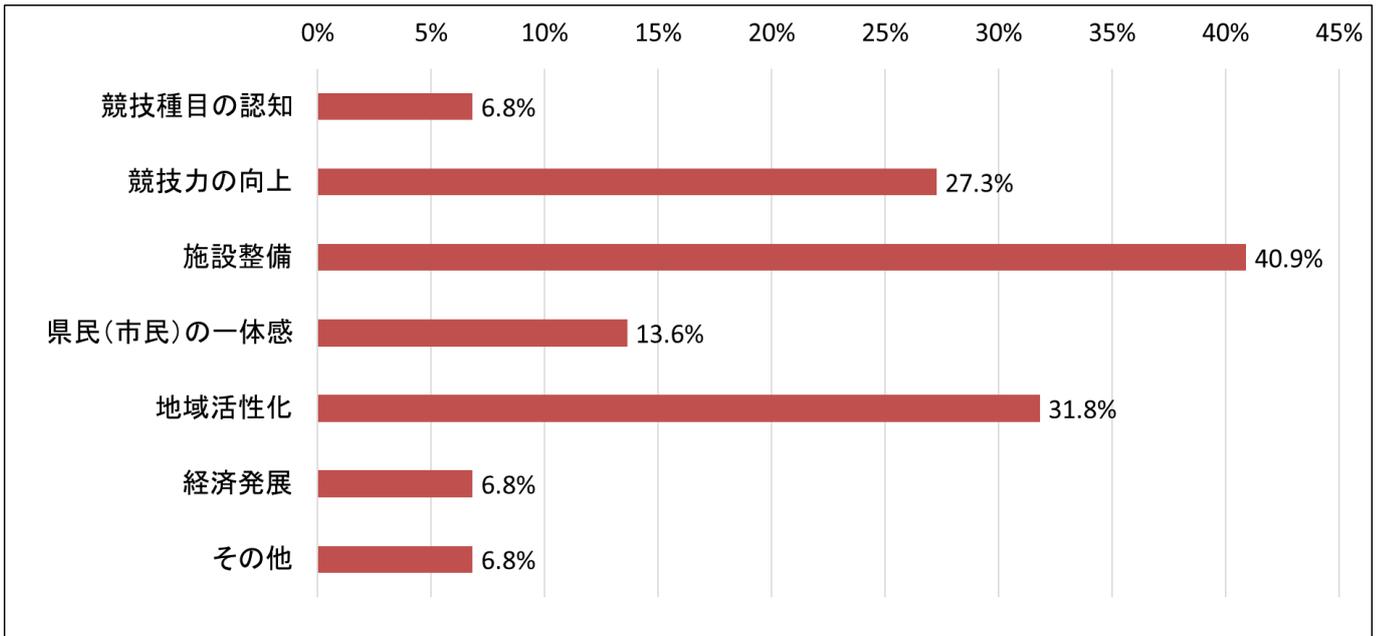
- 各団において団員の確保や、活動に工夫をしながら実施されています。地域との連携を強化している団が多くみられます。

(10) 新型コロナウイルス感染症の影響について

全て中止	2 団体	4.5%
一部中止 (活動の縮小や、大会の中止、参加の取止め等)	37 団体	84.1%
記載なし	5 団体	11.4%

2. 令和12(2030)年開催予定の島根県国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会について

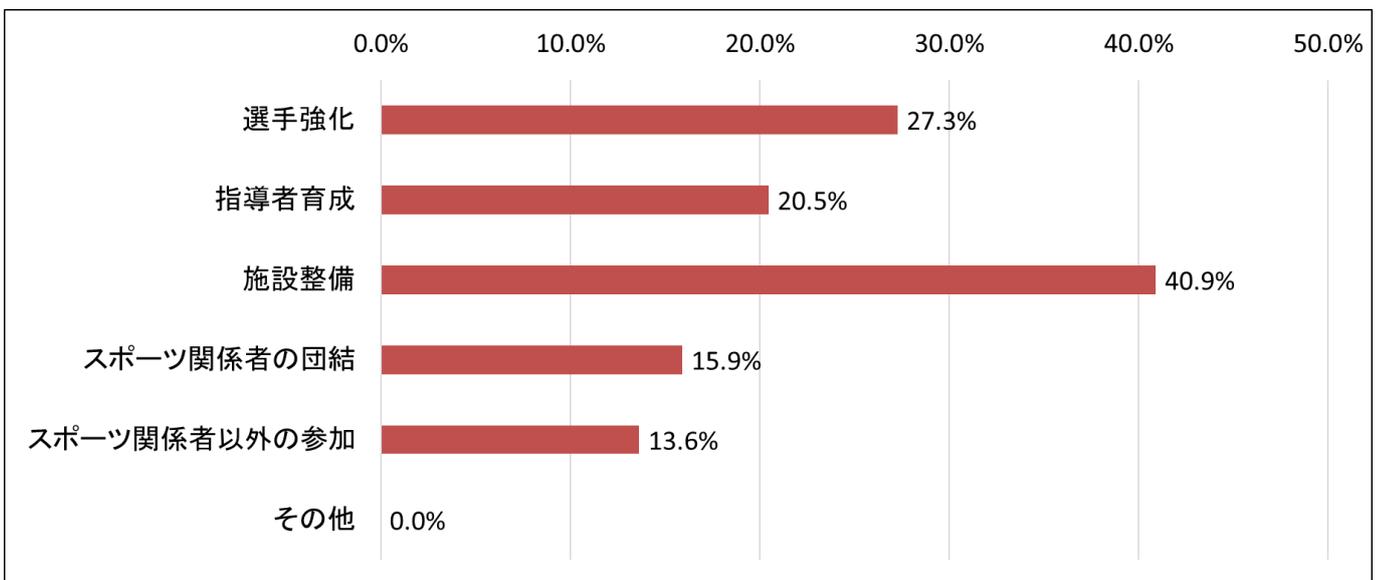
(1) 最も期待すること



(その他)

- ・地域の盛り上がり ・施設管理者の質の向上も求める
- ・スポーツを愛する人々の拡大

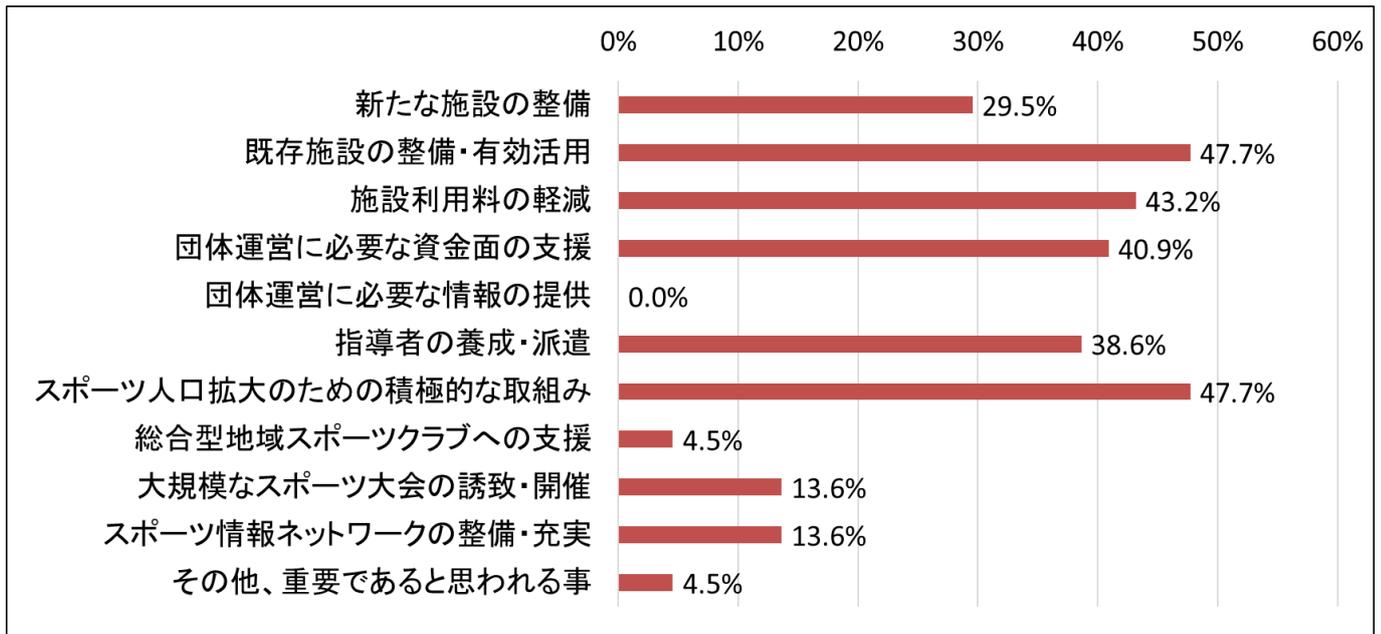
(2) 最も実施すべきこと



●期待すること、実施すべきこととも施設整備が一番多い回答でした。

3. スポーツ振興について

(1) スポーツ振興に重要なこと



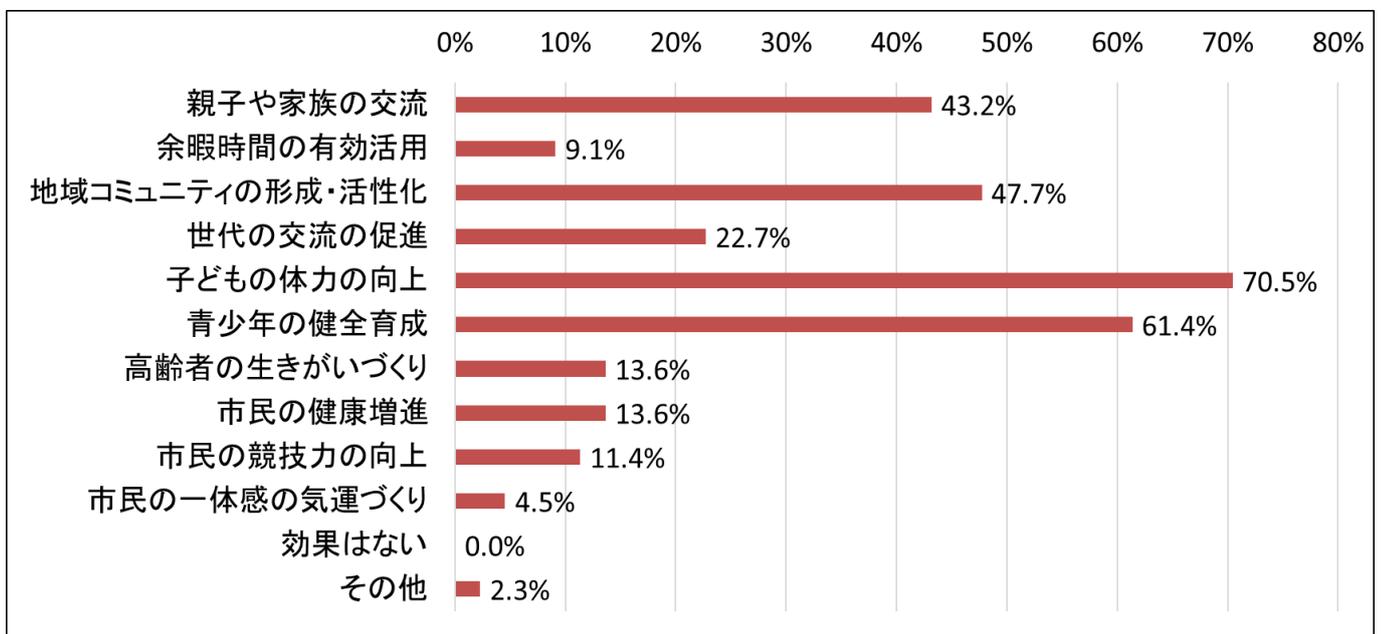
(新たな施設の整備)

- ・ 武道館（3） ・ 人工芝グラウンド ・ どんな種目でも使用できる施設 ・ 屋外屋根付きグラウンド
- テニス、バスケ、フットサル等できる施設 ・ 体育館 ・ バレーコートが2面とれるような体育館（平田と斐川に） ・ 新体育館の早期整備

(その他)

- ・ 指導者の養成・派遣について、金銭的補助を望む
- ・ スポーツ指導者に対してあまりにもボランティア精神を求めすぎているのが現状だと感じる。質の良い指導者を地方にも迎えられるように給料面や地位の向上にも目を向けてほしい。財政としての支援をすることも必要。指導者の支援は、人口減少の地方では必須と思う。
- ・ 平田、斐川第2体育館をなくすのは納得できない。出雲だけに体育館を建設し、斐川は一つ、平田には全く無い。おかしくないですか？使用料を安くして、市民がだれでも利用できる体育館を建設してほしい。

(2) スポーツ振興による効果



(その他)

- ・現状は、スポーツ振興を何も感じられない。施設利用のためのルールが施設ごとに違っていたりして、それぞれの対応が必要。補助金など、もっと実態に合った予算がつくようにしてほしい。
- スポーツ振興については、既存施設の整備・有効活用やスポーツ人口の拡大が重要であり、子どもの体力向上に効果があるとの回答が多くありました。**

4. 市のスポーツ行政や少年団本部に対対する意見・要望等

- ・私達の団（サッカー）は、スポ少と種目別競技団体の二つの団体に登録して活動していますが、そのような必要があるのか疑問です。一本化の必要があるのでは？また、スポ少も、種目別ではなく、総合スポーツクラブへの移行が必要では？かれこれ 30～40 年前のドイツのスタイルに移行の必要が？まとめ役等の問題はありますが。(例) ○○スポーツ少年団の中に各種目のチームがある。
- ・スポ少の横のつながりや、スポーツ関連の情報共有、他競技とのかかわりができたらよいのではないかと思います。
- ・公共施設を使用する際のスポーツ少年団の特典があると良いと思う（料金割引）
- ・スポ少に入っていないスポーツ団体が多すぎる。そのため、スポーツ少年団は市の指示等に従っているが、そうでない団体は自由に活動しているので、困ることが多い。
- ・手厚い援助、資金面
- ・お世話される方に感謝いたします。
- ・スポーツ少年団に入団する団員が減ってきている。塾等に通う子どもたちが多くなっており、仕方ない面もあるが、行政としてもっとスポーツに対し理解され、積極的な支援をすべき（特に財政面）。スポーツは即効果は出ない。数年（数十年）先を見据えた考えのもと実行してもらいたい。
- ・施設利用料の軽減、指導者の減少が心配
- ・少年団や指導員の経済負担（登録費用など）をなくしてほしい。
- ・スポ少の募集用紙を学校で配布させていただきたい（現在はできていない）
- ・スポーツ少年団の指導者に対しての補助をお願いしたい。
- ・体育館の管理者があまりにもスポーツを知らなすぎて、用具や使い方など質問しても答えが返ってこない。若く実際にスポーツ指導などができる人材を採用し配置してほしい。そもそも今の管理では、あまりにもお粗末だと感じる。他に代わってほしいとも思う。アイデアもないと思う。
- ・市の施設の無料化をしてほしい。子どもたちのスポーツ参加へ向けた市の強力な取組。
- ・各競技ごとに管轄する組織の一本化及び強化。競技間での交流。
- ・施設料を軽くしてほしい
- ・登録しているすべての団に資金面での支援を団員数に応じて行ったうえで、残りのお金で活動の助成をしてもらえば、今後も登録していこうと思うが、そういったメリットがなければ登録は減ると思う。※各種スポーツ団体への登録料も負担増となっているため。

Ⅲ. スポーツ少年団指導者の現状について

配布対象：市内すべてのスポーツ少年団指導者 281名

配布時期：令和3年1月29日

回収期限：令和3年2月22日

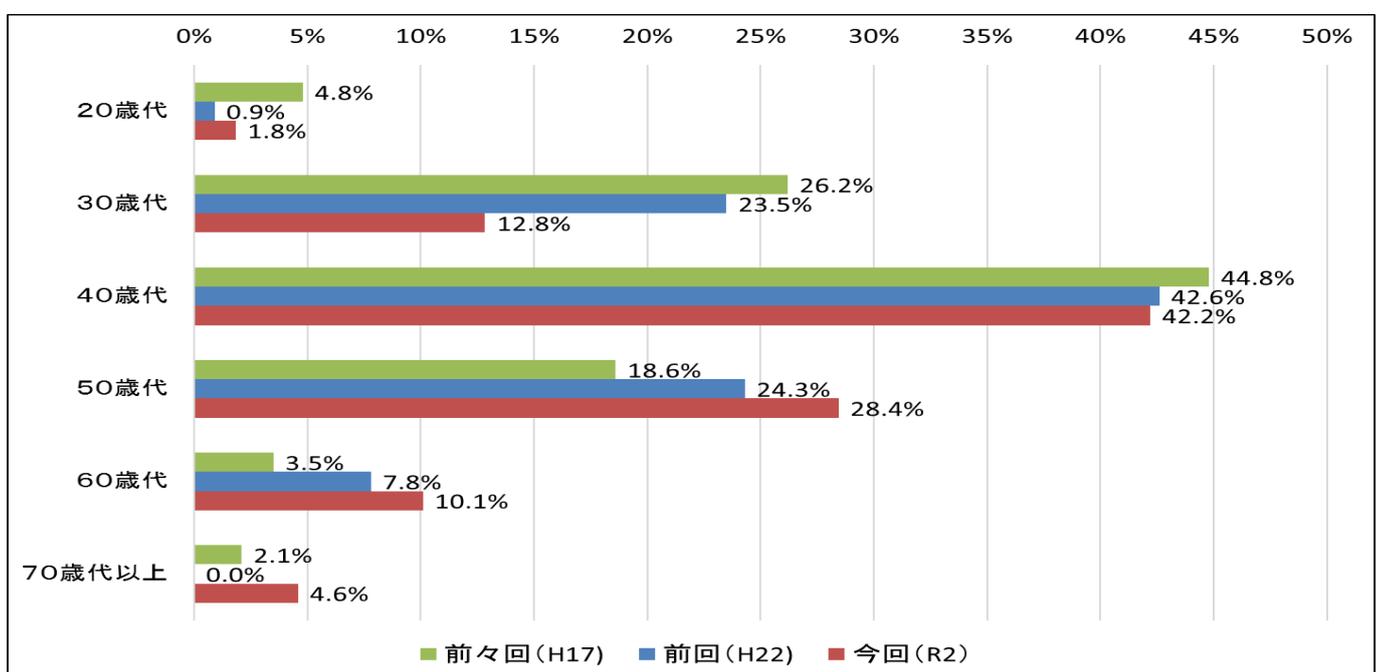
回答者数：109名（回答率：38.8%）

1. 性別

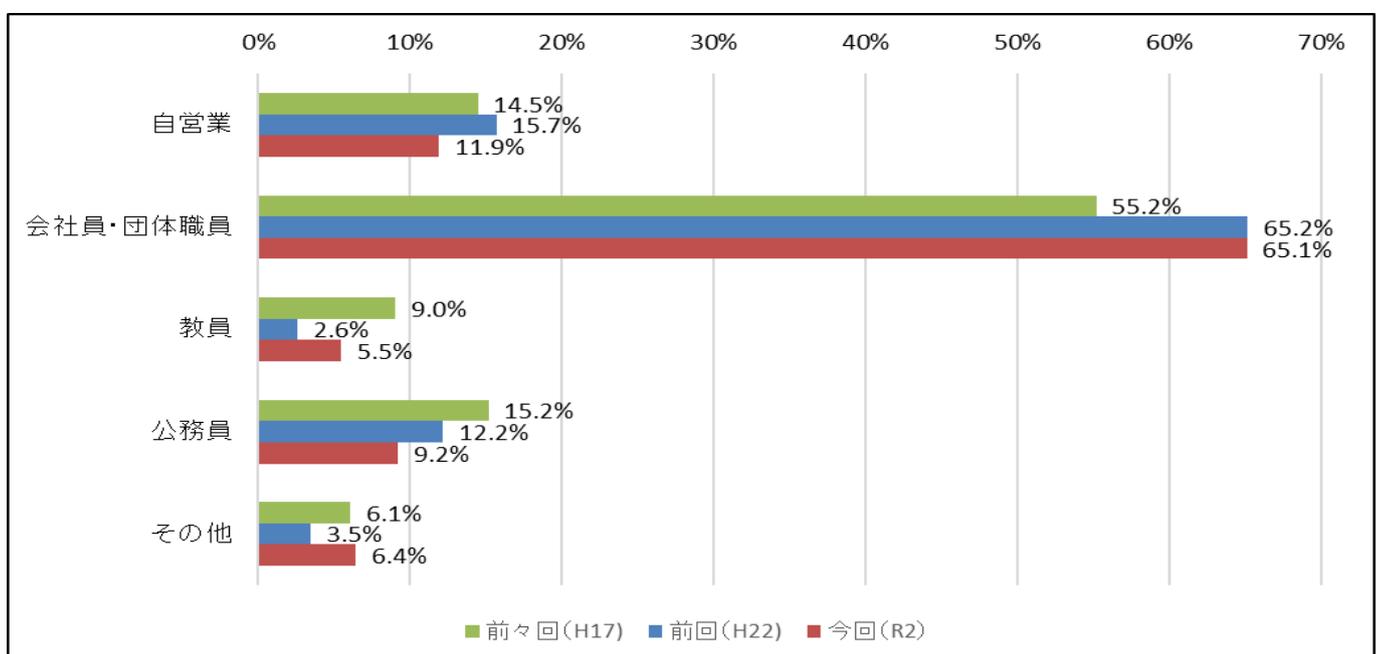
	今回調査		前回調査		前々回調査	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
男	93名	85.3%	109名	94.9%	134名	92.4%
女	15名	13.8%	6名	5.2%	11名	7.6%

●前回調査に比べ、女性の指導者の割合が増加しています。

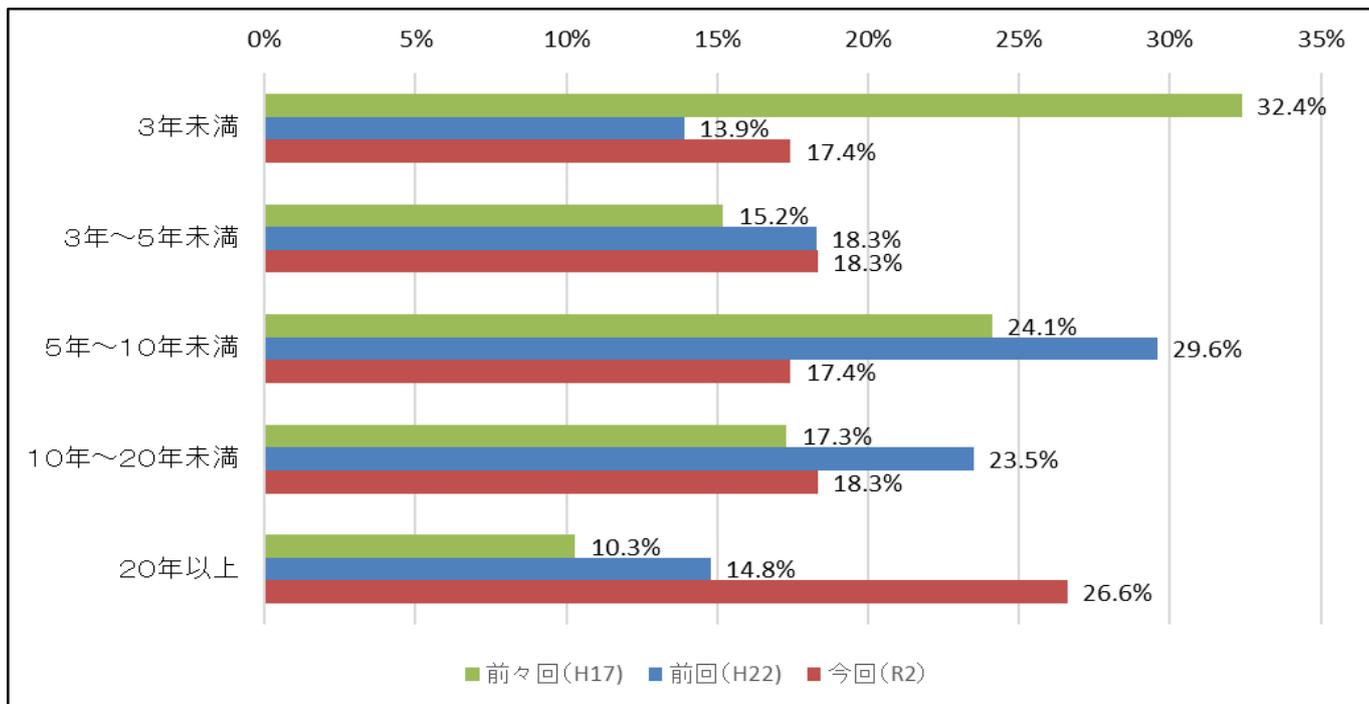
2. 年齢



3. 職業



4. スポーツ少年団の指導経験



●前回に比べ年齢では50歳以上が増加しています。また、指導経験では、3年未満の指導者が増加していますが、5年～20年未満の指導者が減少し、20年以上の指導者が大幅に増加していることから、指導者の世代交代が進んでいないことがうかがえます。

5. スポーツに関する研修・講習等の受講

	今回調査		前回調査		比較増減
1. 受講している	34名	31.2%	21名	18.3%	12.9%
2. 受講していない	74名	67.9%	94名	81.7%	△13.8%

(2) 受講しない理由

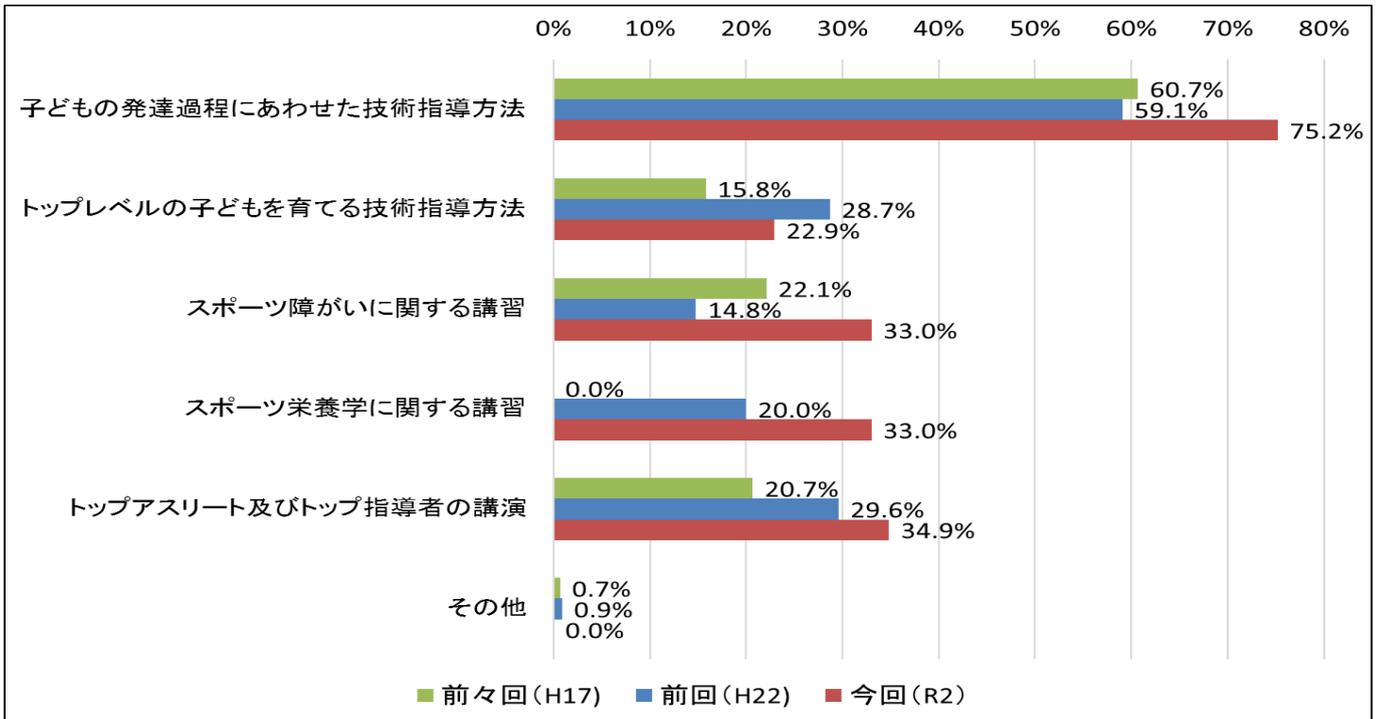
	今回調査		前回調査		前々回調査
1. 魅力的な研修がない	4名	3.7%	8名	8.5%	△4.8%
2. 仕事等が忙しく参加できない	27名	24.8%	61名	64.9%	△40.1%
3. 研修を受けなくても支障がない	18名	16.5%	24名	20.9%	△4.4%
4. その他	25名	22.9%	6名	5.2%	17.7%

(その他)

- ・コロナの影響により研修が無い等（14）
- ・研修が無かった、研修があるのを知らない等（8）
- ・研修の機会が少なかった
- ・練習優先でしているため
- ・2年前に受講した

●スポーツに関する研修等の受講率は、前回調査に比べ増加しています。また、研修等を受けない理由のその他のうち多くが「コロナウイルス感染症の影響で研修等が無かったため」とする理由が多くを占め、本来であればもっと多くの指導者が参加していたと思われます。

6. 参加したい研修内容



(2) 受講してみたい講師

- ・ Bリーグの選手
- ・ 池上正 (サッカー指導者)
- ・ 平岩時雄 (スポーツトレーナー)

7. 指導上の問題、課題等

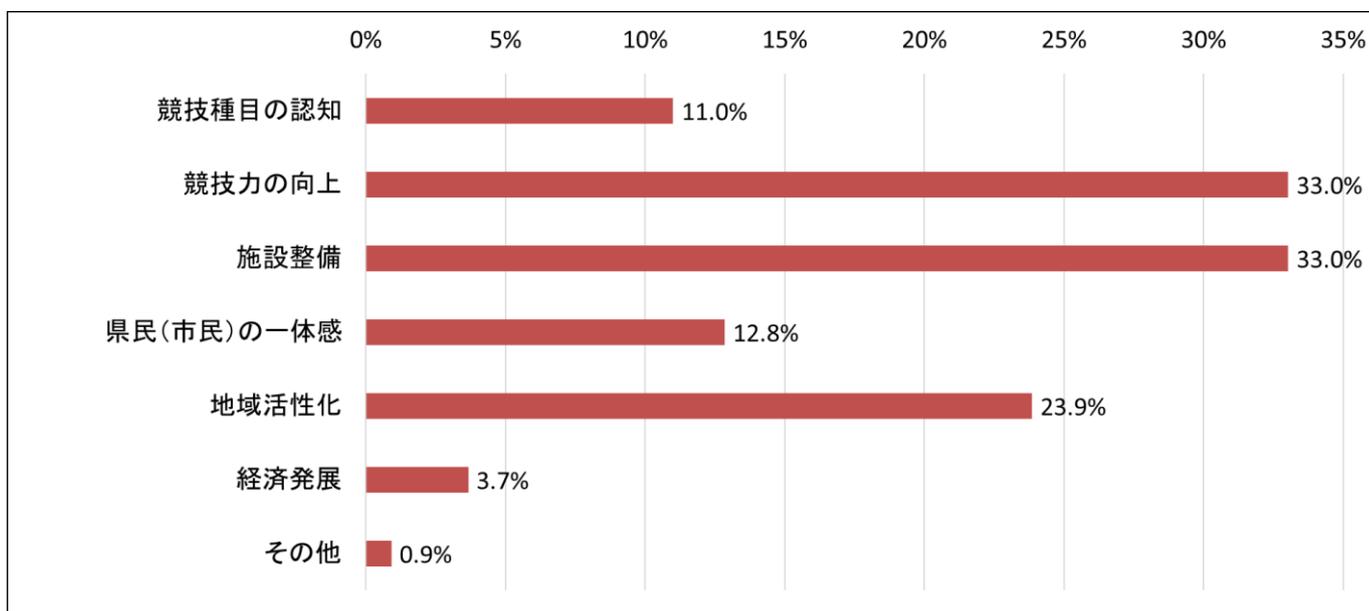
- ・ 技術も大切ですが、スポーツを通してどう生きるかを伝えることができるように様々なトップアスリート及びトップ指導者の講演を学びたい。
- ・ 技術レベルに差があるので幅広い知識が必要になる。指導者によって、指導方法が違うため、子どもたちが迷うことがある。
- ・ できない=やる気がないと思う瞬間
- ・ 子どもの発達には個人差があり、高学年になるにつれて一緒に同じトレーニングを行うことに無理が生じてくると思う。同学年の同レベルの選手を指導したくても、ボランティアで指導してくれる指導者が増えない。
- ・ 低学年の子は、いろいろな性格の子がいて、指導方法が難しい。
- ・ 幅広い年齢をカバーしなければならない事
- ・ 少年野球のトレーニングコーチをしています。小学校のグラウンド練習のみのため、天候等の影響でしっかりとした指導ができません。今の時期の冬季練習ができる環境施設整備が必要だと思います。
- ・ 指導者の確保 (人手不足)
- ・ 特に低学年の指導に悩むことが多く、その年代、学年にあった講習会をしてほしい。
- ・ スポーツ少年団の指導者間で共通の指導プログラムのサンプルが数種類あれば選択して参考としたいと思う。
- ・ 島根レベルからの脱却。選手にボールを止める、運ぶ、けるの基本技術の習得や厳しく体をあてること、攻守における戦術を指導し、紅白戦やトレーニングマッチ、支部の大会でレベルアップを図っている。しかし、より高いレベルのチームとの対戦の積み重ね以外に、選手の意識も技術も改善していくことは難しいと思っている。島根の課題は、より高いレベルのトレーニングをする環境づくりにあると思う。

- ・低学年と高学年がなかなか同じ練習ができない。どちらかのレベルに合わせてするには、指導者の数が足りていない。低学年の体の使い方の指導方法。
- ・学校生活への影響（生活リズムの乱れ、競技スポーツ別のグループ化、競技技能による序列など）
- ・今の時代では子どもに指導するだけではなく、親御さんたちの理解や協力を得るのが難しい（ライフスタイルの多様化、多分化など）、後継者不足
- ・スポーツ少年団等の活動に理解のある保護者さんが減り、入団数が毎年少なくなり、活動が難しくなっている。
- ・団活動以外の体力向上が望めない状態で、能力格差が顕著であると思われます。学校生活でどの程度取組まれているのか？その違いも要因だと思われるので、統一的プログラムが必要ではないのかと。学業優先ばかりでは、社会人になったとき、対応できないと思います。
- ・指導者として今思うことは、競技力向上の前に生活習慣とマナーのこと、育成していくことが必要に思う。
- ・指導員資格更新が有料化になること。
- ・まだ古い考えの指導者が多い。一つのスポーツに限定されてしまい、子どもの未来の機会を奪ってしまうと思うことがあります。
- ・指導者同志の交流が少なく、問題点を相談する機会が少ない。子どもの体について、相談できる場所がない。
- ・ジュニア期のスポーツ障がいとの向き合い方及び選手の意欲のコントロールについて。
- ・指導と言葉での体罰の保護者間との価値観の違い。
- ・指導者の減少
- ・小学生の低学年～高学年の間での指導レベルが違と思うが、分けて指導が難しいので悩んでいます。一緒に練習することも大切だし、それぞれできることは違うので、年代に分かれた考え方が知りたいです。

●幅広い年代に指導することの困難さや指導者不足を懸念する声が多くありました。その他にも指導方法や環境に関する懸念する声があり、子どもたちの健やかな育成において課題が多いことがうかがえます。

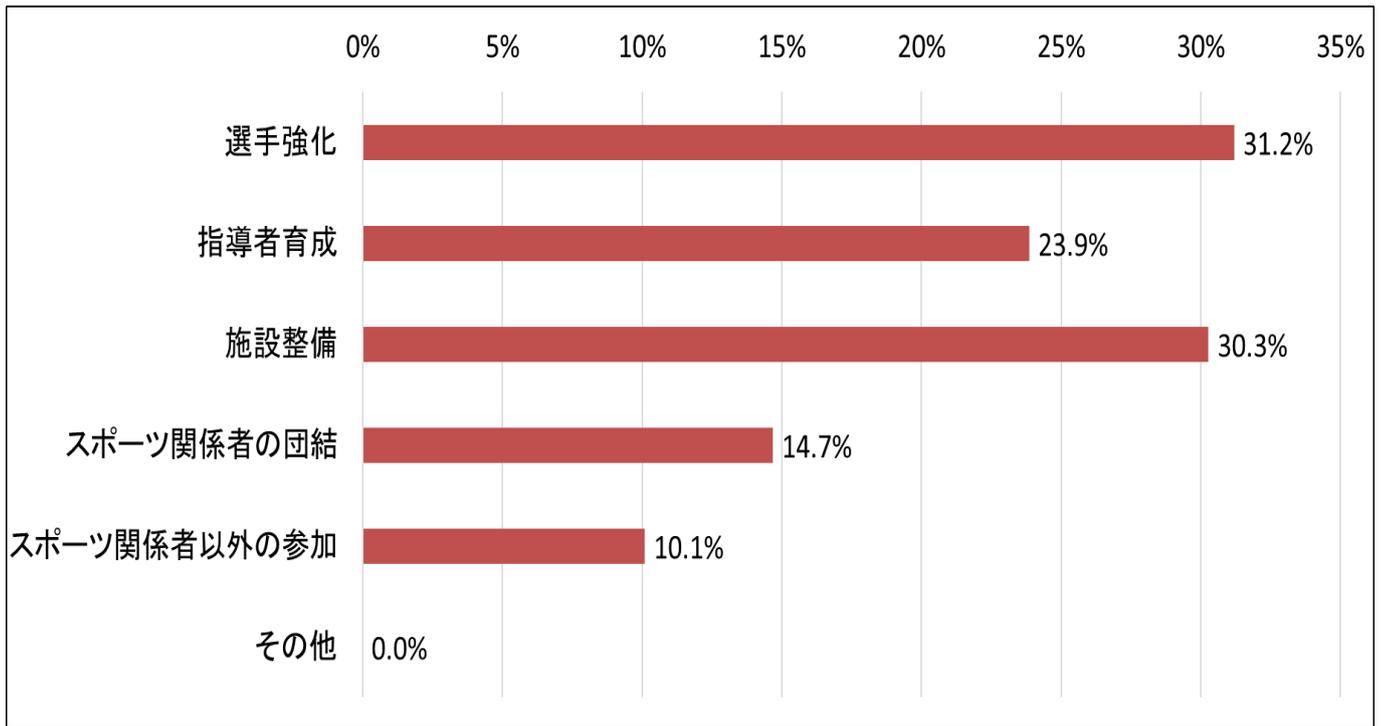
8. 令和12（2030）年開催予定の島根県国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会について

(1) 最も期待すること



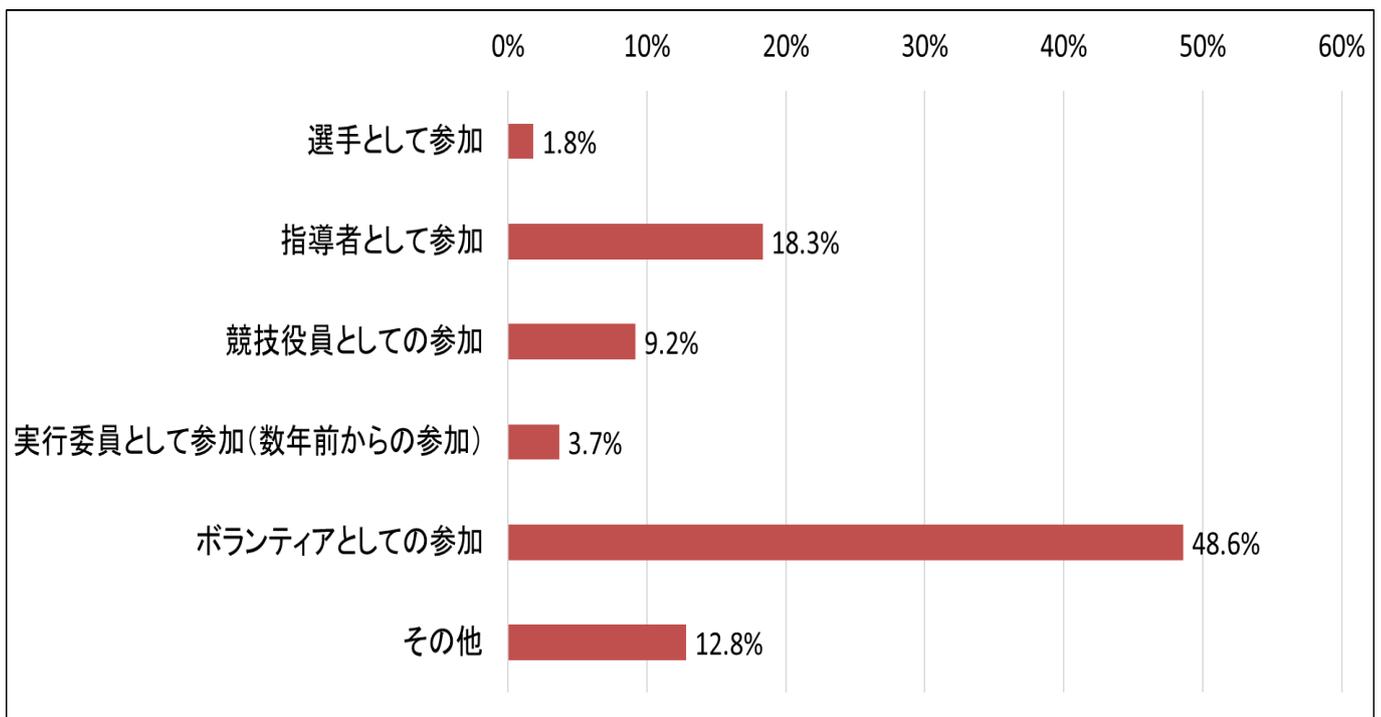
(その他) スポーツを愛し応援する人々の拡大

(2) 最も実施すべきこと



●競技力の向上や施設整備について重要であり、実施すべきこととの回答が多くありました。

(3) どのように関わりたいか



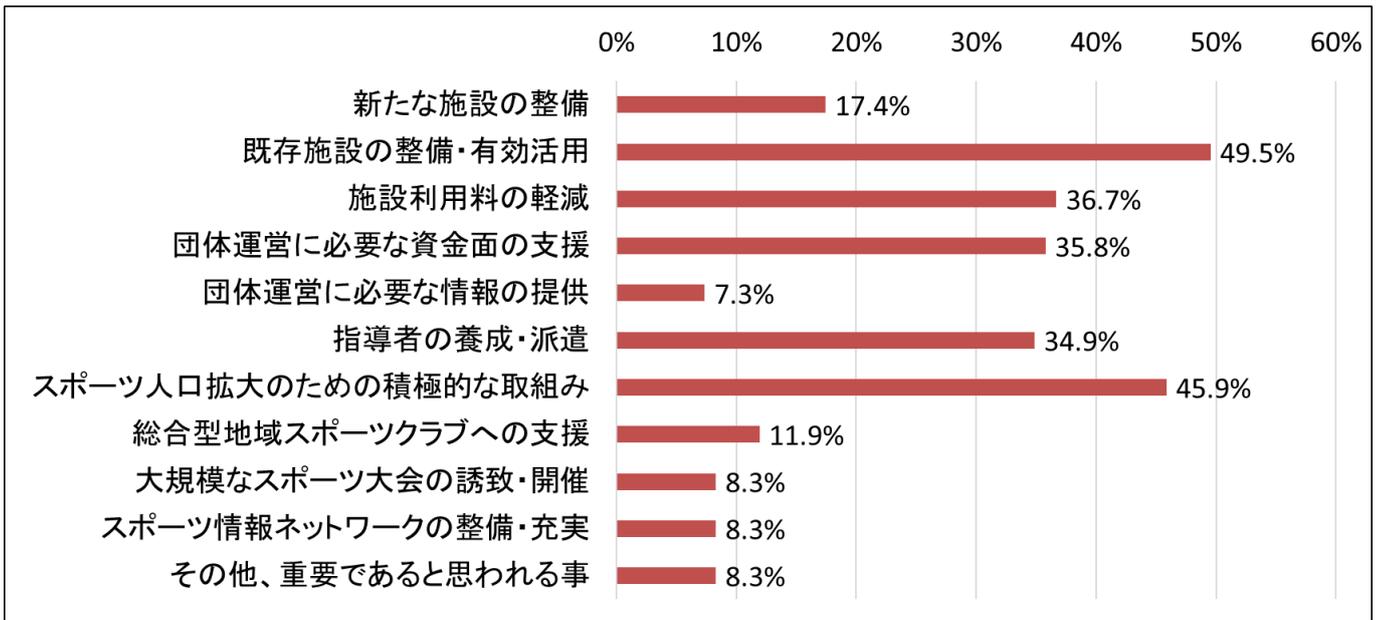
(その他)

・応援・観戦・審判(各1) 参加の意思なし(1) 特になし(7)

●ボランティアとしての参加を希望する回答が約半数を占めました。

9. 市のスポーツの振興について

(1) スポーツ振興に重要なこと



(新たな施設の整備)

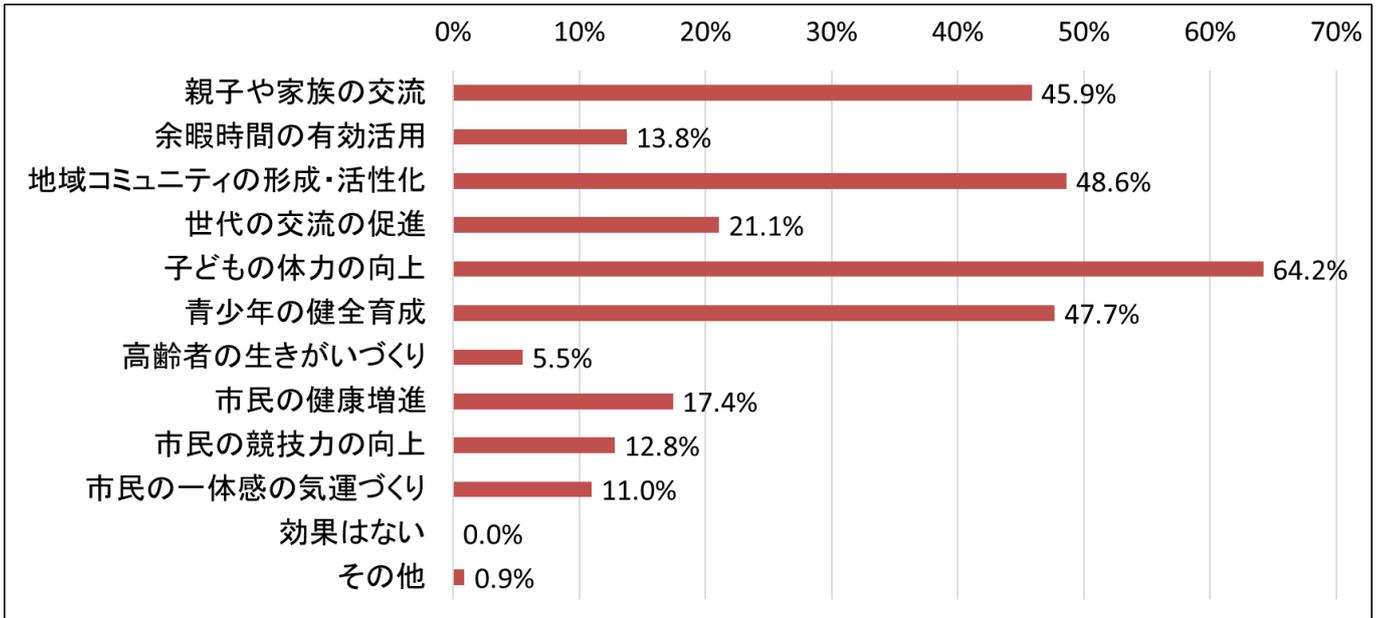
- ・ 体育館の新設（7）（旧平田市に・駐車場有・小学生のスポーツに対応した体育館（バスケットボールボードの高さが調節できる等）・大きなアリーナ、中途半端なサイズは不便なのでいない）
- ・ 室内練習場、無料グラウンド ・ 柔道場 ・ 各スポーツごとの練習場 ・ 天然芝、人工芝のコートが数面あるグラウンド ・ 球場（特に野球） ・ 種目関係なく使用できる施設 ・ 今年新型コロナ感染症の関係で施設が使用できない時期があった。その時、使える施設がないことが分かった。 ・ 武道館

(その他)

- ・ スポーツとICTを活用したネットワークの形成
- ・ 平田健康スポーツ公園のサッカー場の整備。芝生の養生・管理を行い、他の出雲市内の天然芝グラウンドと同じ期間は利用できるようにしていただけると、市民の健康増進、少年少女の健全育成がよりよくなると思う。現在の利用期間は7月から11月となっている。これを5、6月には利用できるように環境を整えていただきたい。
- ・ 小学校のグラウンドが状態が悪く（水はけ、砂等）土日だけの練習ですが、悪天候後、晴天でも練習できません。体育館も室内スポーツで使えないので、少ない練習日も休みになります。
- ・ 学校施設の利用方法・状況がまちまちなため使える施設がかたよる。
- ・ 浜山体育館と近くに出雲市体育館があれば、大きな大会などでの使用ができる。中国大会などになると近くの学校体育館を使用など浜山体育館メインで行うことが多いため。
- ・ トップアスリートとの交流・各大会への参加依頼等
- ・ 子どもの基礎体力を伸ばすための公園又は広場整備（芝生など）
- ・ 中学校、高校への外部指導者の積極的な派遣・支援
- ・ 学校施設の整備（多くのスポ少は小中学校を使用）
- ・ 体育館等の老朽化で使えなくなる施設に比べ、新たに建築される施設が少なすぎ、大会運営等が非常に難しくなっている点

● 既存施設の整備・有効活用やスポーツ人口の拡大が重要であるとの回答が多くありました。

(2) スポーツ振興による効果



(その他)

- ・フェアプレー精神を養う、正しい方法で正々堂々と勝つこと、1回の人生を悔いなく正しいと信じる道を見つけて進めるよう望む（無理なこととは思っているが）
- 子どもの体力向上に効果があるとの回答が一番多く、親子、地域との交流が図れ、青少年の健全育成に効果があるとの回答も多くありました。

10. 市のスポーツ行政や少年団本部に対する意見・要望等

【活動内容・大会等】

- ・低学年の試合やイベントの実施
- ・学校行事（運動会など）の日程を出雲市内の小中学校で統一していただけると大会棄権のリスクが減らせます。
- ・少年野球の新ルールは無理がある。投球数制限の廃止、団員数減少のため。11月から3月の試合の廃止。外気温が低いため、けがの確立大、冬季トレーニングの期間にしたい。
- ・「スポーツのまち出雲」をめざす。子どもに、一つの競技ではなく、いろいろなスポーツを体験できる取組があればと思います。また、丈夫で健康な、そして、戦える体づくりのため、保護者・指導者を対象とした栄養学の講習会を定期的実施してほしい。大規模ではなく、気軽に参加できる市民参加のマラソン大会、トレイルラン大会、ダンス発表会イベントなどを企画すると良いと思います。弥山（北山）縦走大会を開くことで、山の整備、手入れが進み、環境保全につなげることができると思います。
- ・出雲市は浜山公園があり、また、他にも各施設があるので充実し、恵まれている。昨年はコロナで大会が中止となり残念でしたが、様々な大会でトップアスリートを呼び、夢や目標を子どもたちに持たせることが大事と思う。昨年までもされていたので引き続き実行していただきたい。
- ・指導者を育成する研修をもっと増やしてほしいです。よろしくお願いいたします。

【施設関連（整備・料金等）】

- ・平田健康スポーツ公園サッカー場の利用期間の拡大・グラウンドの凸凹の改善。小中学校校庭へ照明の設置。
- ・1年中使用できる環境、屋根付きテニスグラウンド、屋根付きフットサルコート、人工芝グラウンド（サッカー）など

- ・小学校のグラウンド状況が最悪なので、市、本部からもグラウンド整備を小学校側に指導してほしい。出雲ドーム、浜山練習場の有効活用。
- ・スポ少活動での体育館施設使用料の割引や減額
- ・屋内スポーツは体育館が減らされた場合に大会等を開催できる場所の確保が難しくなるため、施設の整備を要望
- ・各施設の無料化

【補助金等支援】

- ・活動をすれば必ず経費がかかります。大会支援だけでなく、通常練習支援をしてほしい。
- ・スポ少を含めて競技スポーツの指導者には、補助とか登録とかがなく無手当てで頑張っています。講習会に参加したり、指導者の資格を持っている人の育成し、経費の一部補助とかをお願いしたい。
- ・毎年のように出雲市へ補助金交付申請書を出しているが、年々削減となっている。削減されるのにたくさんの書類を提出しなければならない。出雲市の財政が厳しいことは分かるが、そろそろ底辺までできていると感じている。減額を中止してほしい。また、昔のように誰でも指導できる時代が終わり、全てライセンス制度となった今、指導者になりたいと思う人材が少ない。ライセンス維持、所得にも多くの出費となる。補助金制度でもあるとうれしい。

【組織体制等】

- ・校区外の少年団に入ることに抵抗を持つ指導者、保護者がいる。また競技人口の偏りも見られ活動できない少年団も耳にします。このようなことでは島根自体の競技力、有望選手の発掘ができません。競技に関わらず自由に地域関わらず、友好的、開放的に競技実施できる環境整備していただきたいです。具体的な要望ではなく申し訳ありません。
- ・スポーツ少年団に登録するメリットが増えればもっと団数が増えると思います。
- ・小学校でやっていた競技が中学校に行くと希望の部活動がない、もしくはちゃんと指導できる先生がいらない。スポ少で楽しさが分かってきても、中学校でさらに楽しむことができない。
- ・現在、私たちの団では、スポ少と種目別の競技団体との二つに加盟しています。今後、2つの登録の必要はあるのでしょうか？種目別団体の大小若しくは運営の方法等、私達の不明な点はあるのですが、1本化も必要ではないでしょうか。
- ・子ども達がスポーツをすることによる効果（体力や技術の向上、人間的な成長等）について、保護者世代に向けて積極的にアナウンスしてほしい。
- ・少年団としての活動がPRが不足しているように感じています。登録しなくても活動はできると思ってしまう。小学生は一つのスポーツに限定せずに複数のスポーツに関われる機会を作ってほしいと思います。

【その他】

- ・予算が全てではない、限られた予算をより大きくするように人数を減らしてでも取り組むべきである、配布書類（無駄・不要なものが多い）、職員数も多い、時代に対応した仕事の方法をしよう
- ・「出雲市スポーツ振興計画」を市民が認知しているのだろうか。認知の方策を行政的立場から考えていただきたい。総合型地域スポーツクラブがある団体が牛耳っていて、それぞれのクラブが独自性がうかがえない。独自性を表に出してほしい。スポーツ少年団の競技性が高く、本来の目的が達成できていない。
- ・この様にアンケートで意見を聞いていただけることは、大変ありがたいことです。我々スポ少指導者が、どのような考えで実施しているかをお伝えする場があることで、少しはお役に立てるかもしれません。今後も継続してアンケートを実施していただくことをお願いしたいと思います。ありがとうございました。